

# 環境基本計画検討部会 会議録

1. 会議名 平成 27 年度 第 9 回東久留米市環境基本計画検討部会
2. 日 時 平成 27 年 8 月 21 日（金） 午前 10 時 00 分から午後 13 時 00 分
3. 場 所 東久留米市役所 2 階 203 会議室
4. 出席委員氏名（敬称略）重藤さわ子（部会長）、水戸部啓一（副部会長）、田中直子、豊福正己、米村ひみ子、
5. 欠席委員氏名（敬称略）遠藤毅彦、小泉勝巳
6. 事務局職員名、荒島久人環境政策課長、小平卓係長（計画調整係）、藤井華子主事（計画調整係）
7. コンサルタント会社（株式会社 総合環境計画） 宮下英之、花田浩一、植田恵理
8. 傍聴人 なし
9. 議題
  - (1) 第 8 回環境基本計画検討部会会議録（案）の確認について（資料 1）
  - (2) 現計画 1 章・2 章について（資料 2）
  - (3) 現計画 3 章（説明の書き方と他会議からの意見）について（資料 2）（資料 3）
  - (4) 現計画 4 章（主な施策）について（資料 2）（資料 4）
  - (5) 現計画 5 章（点検評価項目）について（資料 5）
10. 配布資料
  - 第 8 回検討部会会議録（案） …資料 1
  - 環境基本計画 作成イメージ（全体構成と 1・2 章及び 3-1） …資料 2
  - 平成 27 年度第 1 回環境審議会会議録（抜粋） …資料 3
  - 他都市の環境会議の事例 …資料 4
  - 次期環境基本計画活動指標候補（施策毎） …資料 5

## 11. 平成 26 年度第 6 回環境基本計画検討部会

・出席者の報告 出席 5 名、欠席 2 名、定足数に達しており会議は成立

(1) 第 8 回環境基本計画検討部会会議録（案）の確認について（資料 1）

【事務局】内容に変更なければ委員のお名前を伏せてHP上で公開する。変更箇所がある場合は 8/21 か 8/22 までに事務局に連絡してほしい。

【部会長】8/22 までに連絡のない場合は承認されたものとする。

(2) 現計画 1 章・2 章について（資料 2）

【事務局】

・1 章・2 章について前回から修正概要を説明。

【コンサルタント】

・前回からの変更点の詳細を説明。

【部会長】これまで中間見直しや第一次計画が一般向けではなく、わかりにくい内容になっているとの議論があった。第二次計画では、内容の精査が進んできているが、今後の課題は、一般の方にわかりやすいものにするところであると思う。これまでもわかりやすくするよう注力してきたが、誰の目で見てもわかりやすいという意味では、まだ課題があるように思う。今後の見直しとしては、特にわかりやすさを中心に考えていきたい。そうした観点からも意見がほしい。

【委員】P7、進捗状況は、今の表形式でまとめることで良いと思う。記述内容について、抜け、漏れも多いとの意見も出るかもしれないが、これは、これで良いと思う。一方、次に課題が記述されているが、こちらは、表形式ではなく文章表現になっている。そして、次の項目は表形式になっている。この辺は表現方法を統一するなど、整理が必要である。また「社会的な新たな課題」も、情報量が非常に多いため、こういった部分も多少見直しが必要であると思う。

【部会長】「社会的な新たな課題」は、専門的になりすぎていると思う。一般向けではない。それに関連した意見だが、「課題」という単語が多すぎると思う。

また、P13 の「策定に向けた課題のまとめ」の各フレーズが、訴えたい対象に響かないと思う。例えば、2 項目目の「全世代での～」は、「若い世代での～」とした方が良いと思う。

【委員】P13 は、今まで部会で述べてきたことをすべて表現しているのかどうか。今回、個別目標 8 を新たに追加したわけだが、これは協働や市民参加を強調したいためである。その点が P13 には不足している。これまでの議論とのつながりが重要である。また、一番目の項目が「緑地・農地の保全」となっていることに違和感がある。

P19、「将来の環境像」は、緑の基本計画のようにわかりやすい文章で表現すべきである。目指す姿をイメージできる文章にしてほしい。

【部会長】 その他の部分も緑の基本計画を参考にすると良い。また、写真が多いと一般の方にもわかりやすい。

【委員】 それぞれの取り組みが関係していることを表現したい。例えば水と緑を守ることは生き物を守ることにつながっていることなどである。

【部会長】 次の段階として、方針を決めて編集作業をする必要がある。

【委員】 人の心に響くフレーズということに賛成する。都市計画マスタープラン策定時も人の心に訴えかけることに注力していた。まちづくりのマスタープランということで、感覚的、直感的に理解ができることに留意した。すべてのページに写真を入れるなど配慮した。図や、東久留米らしい街の風景写真は、第一次都市計画マスタープラン策定時のものを活用した。もっと東久留米を良くしたいという気持ちになってもらえるよう、人の心に訴えかけることに心掛けた。「エッセイのうようになりすぎている」との意見もあったが、結果的には採用された。第2章で一番重要なのはP13である。この部分は、見開きにするなど、大きく見せてはどうか。

【委員】 まず中身を固め、その後でどのようにわかりやすくしていくかを考えた方が良い。漏れているもの、あるいは余分なものがあるのかどうかを議論する必要がある。P13では「市民の協働」につながる記述が不足しているので、しっかり押さえていく必要がある。

また、生物多様性地域戦略など、環境基本計画の策定以降に作らなくてはいけない計画は、それが文章からもわかるようにしてほしい。

緑や水の分野で今まで議論してきた中で、何が今大きな課題なのかということは、意外と共有されていないのではないかと。緑は漸減し、歯止めがかからない状況だが、今回の環境基本計画では、力点が新たな社会的課題に向いている。

第二次計画では、第一次計画で取り組んできた内容をしっかりと受け止めながら継続的に取り組むことと、活動が弱くなっているものは、もう一度強化することが狙いである。また、点検評価の仕組みづくりも狙いである。今までは、水や緑というローカルな環境だけに取り組んでいれば良かったが、ローカルな環境に影響を与える気候変動、水循環、あるいは新たな社会的課題の生物多様性などにも取り組んでいくことが第二次計画に求められていると思う。そうしたことを大きな課題として、盛り込んでほしい。

【事務局】 入れ込むべきことや強調すべきことを委員の方に出してもらって、それをまとめて、整理、決定したい。文章が決まれば、パブコメや庁内の決定はこちらで作業する。文章を決定してから写真やコラムを検討、追加したい。

【委員】 ここで出た意見すべてを反映させるのは難しいので、優先度の高いものか

ら取り組んでほしい。

【部 会 長】内容については、各委員が同じ方向を向いていると思う。見せ方が決定すれば、あとは今ある材料をはめ込んで作業すれば良い。

【委 員】誰に見てほしいかで見せ方も変わる。どの層をターゲットにするかを決めてみてはどうか。例えば子育て世代などはどうか。

【委 員】そんなにたくさん製本しないのではないかと。概要版はともかく、本編はある程度関心がある人が見るものであっても良いと思う。パンフレット等を作成すると思うので、本編はあまり噛み砕かなくても良いと思う。

【委 員】今はWEBの閲覧が主流なので、印刷部数にこだわらなくても良いと思う。

【委 員】一般的にはWEBで行政情報を見ることがあまりない。パンフレットのような小冊子の方が読みやすい。

【部 会 長】確かにWEB閲覧よりも手に取りやすい小冊子の方が見てもらえるだろう。いずれにしても、理解しやすくすることが一番重要である。本編では、コラムの追記なども検討していきたい。

【委 員】一般の方に読んでもらうにはボリュームを考慮する必要がある。

【コンサルタント】現時点では網羅的に内容を載せているので、委員のみなさんから強調したい項目を挙げていただきたい。

【部 会 長】P13の(4)をメインにした構成にしてはどうか。

【委 員】一次計画の評価からの流れがわかるようにと議論したが、その点が反映されていないと思う。一次計画の評価と課題を並べて、そのつながりがわかるようなレイアウトにしてはどうか。

【委 員】その通りだが、内容が膨大になってしまうので、事務局では進捗と課題を切り離しているのだと思う。

【委 員】P12、市民は基本的に関連計画の詳細な内容に興味がないので、別にしてまとめる方が良いと思う。各計画の説明は資料編にまとめても良いのではないかと。むしろP13をもっと大きくまとめてはどうか。

【部 会 長】現在出ている意見を一度まとめたいと思う。

①流れを重視：(4)がクローズアップされるよう再構成

進捗：課題がわかるように（個別目標8につながるように課題を整理）

②「課題」をまとめる（重複チェック）

③詳細は「参考」などへ

④「課題」（キャッチフレーズ）→心に響くものに

（課題を受けた方向性を書くのがよい）

⑤目標間の関連性も記述する

【委 員】P13、「緑地・農地の保全・創出への対応」は表題とするほどの課題とは思えない。

【事 務 局】緑地保全計画検討委員会では、緑地・農地が減少してくるのはやむを得ない

としても、東久留米市として残すべきものは、残すということで検討している。来年度以降、施策は進んでいくと思うので、環境基本計画にも入れてほしい。

【委員】とはいえ、一番上に載せる項目ではないように思う。

【部会長】これまで部会で主に議論してきた内容は、若い世代の問題、新しい課題への対応、協働の取り組みの明確化、計画の点検評価である。水と緑は第一次計画でも重視してきており、第二次計画ではさらに強化する位置づけになる。そう考えると、我々が主張したいのは「緑地・農地～」以外の3つであるので、「地球環境や生物多様性、水循環など環境を取り巻く状況変化への対応」に含めてしまうのはどうか。

【委員】環境基本計画は、環境に関する取り組みの指針、根拠となるもので、水や緑をなくしてしまうのはよくないが、一番上でなくても良いと思う。

【委員】緑地・農地の減少に関する記述はP8にもある。ここは新たな政策、施策を策定していくということにして、水や緑は他の頁で述べても良いのではないか。

【委員】「地球環境や～」の地球環境の部分は消して、「生物多様性、水循環など～」と「緑地・農地～」を合せてはどうか。生物多様性や水循環が、社会的に注目を浴びるようになってきた一方で、緑地や農地が減っているという事実もある。これを課題として新たな施策につなげるまとめ方はどうか。

【部会長】例えば「生物多様性、水循環、緑地・農地の減少など環境を取りまく状況変化に対応」としてはどうか。

【委員】緑地・農地の減少は状況変化ではなく、継続して取り組むべき課題ではないか。

【委員】取り組みが変わったのは、保全するところは保全するが、漸減は仕方ないという方針と決めたことである。

【委員】緑地の減少は、日常で言えば、生垣がブロック塀になったり、空き地が駐車場として整地されたりしていることで現れている。緑地保全地域の緑の問題だけではない。三鷹市では、生垣普及率を目標値として定めるなど、環境基本計画の中で暮らしの中の緑を重視している。精神的にも、景観的に重要な緑を守ることができないか。

【委員】生垣は管理が難しく、近所に迷惑をかけてしまう可能性がある。

【委員】三鷹市では、ブロック塀と生垣の複合でも生垣としてみなしている。

【部会長】P13は間違っことは書かれていないが、違和感がある部分でもある。それは進捗と課題をまとめて書くことが難しいからだと思う。

【委員】第一次計画の課題はなんであったかという点、環境意識や活動そのものである。水と緑に対しても、取り組んできたが課題としては薄い。緑地・農地の保全について、大きく取り上げる必要はないと思う。

- 【部 会 長】確保できる緑は確保するなどはどうか。
- 【委 員】それは創出への対応とは意味が違うと思う。
- 【委 員】緑の保全には、財源が必要だが、緑の基金には「緑地・農地の保全・創出」と言えるほど資金がないと思う。
- 【部 会 長】P13の「緑地・農地の保全創出への対応」を残すかどうかを決定したい。
- 【委 員】残さなくていいと思う。
- 【事 務 局】生物多様性については「取り巻く状況変化」ではないように思う。もともとあるものである。法が制定されたという意味では状況変化であるが、その前から必要性については、言われてきたものである。「生物多様性」、「水循環」と「緑・水」は同じカテゴリーでいいと思う。
- 【部 会 長】印象としては「状況変化への対応」ではなく、水循環などへの対応、強化だと思う。
- 【委 員】中間見直しでも、「地球環境・生物多様性・水循環」を入れていた。だがその取り組みは、まだ十分進んでいないことが課題である。水・緑も緑の基本計画ができたばかりなので、きちっと進めていこうという課題はある。
- 第一次計画の課題は、第二次計画でも受け継いでさらに強化していく必要があると書くのはどうか。
- 【事 務 局】「新しい社会状況変化」である地球温暖化対策は、世界で目標を掲げるものであるが、今は目標がないという現実もある。
- 【委 員】地球環境問題は、京都議定書以来取り組んできているものであるが、東久留米市全体としては、今まで取り組んでこなかった。地方公共団体の中だけで取り組んではいたが、まち全体として一緒に取り組むことが、今後の課題になると思う。今までは自分の建屋だけで取り組んでいた。
- 【委 員】例えば、「生物多様性、水循環などへの対応の強化と緑地・農地の保全」としてはどうか。生物多様性、水循環への対応強化は緑地農地の保全に含まれる。緑地・農地を保全することが、生物多様性や水循環につながっていく。もしくは表題は「生物多様性、水循環などへの対応の強化」にして、説明として緑地・農地の保全にも触れるという整理の仕方もある。
- 【部 会 長】目標の関連性を考慮すると、緑、生き物など課題が関連していることを記載できるのは、この項目だけだと思う。
- また「全世代での環境意識の向上～」という表現よりは、「協働の取り組み体制の強化」とした中に若年層も含めた課題を書き、環境意識を向上して、一緒に取り組める体制とするロジックの方が良いのではないかと。
- 【委 員】やるべきことを書く方が良い。課題を受けた方向性のようなキーワードの方が良い。
- 【部 会 長】では、続いて3章を議論したい。
- 【委 員】P8 アンケートの割合は、間違いではないか。

【コンサルタント】確認する。

(3) 現計画 3 章（説明の書き方と他会議からの意見）について（資料 2）（資料 3）

【事務局】

・ 前回の審議会での意見、対応について説明。

【部会長】 LCA（ライフサイクルアセスメント）的な考え方が必ずしも浸透しているわけではないので、古い家電でも捨てない方がいいと思っている方はたくさんおられる。そこでコラムでそういった情報も盛り込むこととなった。

【委員】 審議会が出た「地下水、土壌の環境基準を守る」に対する意見について補足する。地下水は規制がなく基準しかないのと説明したが、行政の基準を事業者が守るとの表現は適切でないという意見をいただいた。事務局で検討をお願いします。

【部会長】 以上の件以外は、審議会承認された。では、3 章の内容について説明してほしい。

【コンサルタント】

・ 3 章の内容について説明。

【部会長】 何か意見があるか。

【委員】 取り組みごとに項目立てしてはどうか。

【コンサルタント】 小見出しが膨大になってしまう。

【委員】 具体的な取り組みを通じてこの先どうしていくかなど、先が見えるような書き方が重要である。例えば P22 の「河川の水質の状態を常に把握するための」とあるが、なぜ河川の水質を常に把握しなければいけないのかがわかりにくい。

【コンサルタント】 上段に「保全活動の実効性を確保するためには、モニタリングが重要です。」と記載している。

【部会長】 もっとわかりやすくしたい。実効性というフレーズは難しいと思う。

【委員】 例えば「湧水を守るためにみんなで保全しましょう」となれば、そのために、このような考え方で、具体的にはこういった活動をしようというイメージである。やるべきことを書き連ねるより、活動が何のためにあり、何の役に立っているかがわかるようにしたい。

【部会長】 「〇見出し」の前に理念を入れてみてはどうか。そのあとで表組みの箇条書きで、施策・取り組みを記載してはどうか。

【委員】 それなら P25 の表をそのまま挿入しても良いのではないか。

【部会長】 良いと思う。さらにコラムも書き添える、という方針で。それでは 3-1 は今の議論を踏まえて修正し、部会で共有したいと思うがよろしいか。

（一同同意）

(4) 現計画 4 章（主な施策）について（資料 2）（資料 4）

【事務局】

・4章の進捗について説明。

【委員】私のイメージでは、環境情報センターを市民と一緒に運営しているなど、環境に関する協働の窓口のようなものが必要ではないかと考えた。組織として、仕組みとして、例えばプロパーがいるなど、市民とのコミュニケーションができる組織があると、市民と行政の協働が進むと思う。

【委員】「協働の仕組みづくりと運営」は、今後の検討とするのか、環境基本計画に盛り込むのか。

【部会長】市民環境会議の今後の方向性は、環境基本計画に盛り込みたい。

【委員】市民環境会議の役割や位置づけ、再編などについて、計画の中に盛り込むということか。

【委員】環境に関わらず、市民との協働に対する行政の考え方が問われる部分である。環境基本計画を突破口にするという意味では、盛り込んだ方が良いと思う。

【委員】そういう意味では、「強化する取り組み」として記述した方が良い。地球温暖化などは、市民の協力なしで効果が期待できない。そのためにネットワークを構築し、お互いに役割を明確にする必要がある。市に担当者を置いたり、市民環境会議を中心に他団体を集めて会議をしたり、いろいろと考える必要がある。

【事務局】東久留米市は市民協働課のようなものがなく、現在は市民協働係であるのが実情である。

【委員】市民環境会議では、環境学習に関する市の窓口を要望したが、人力的には無理ということで実現できなかった。

【委員】答申の際に、付帯意見のようなものを付けることができる。

【部会長】個別目標8を加えた趣旨からも、今後のために、環境政策課が動きやすい内容を加えてはどうか。現実的な方向が見えると良い。

【委員】ワンストップの窓口となると、例えば日野市の環境情報センターのように組織的に独立し、別組織でやらないと運営は難しい。

【委員】予算も必要である。

【委員】多摩市のように会費制で運営している事例もある。

【部会長】会費を集めているということは、役員に対する報酬も支払われているかもしれない。

【コンサルタント】運営規定では、報酬の支払いに対する規定がある。

【部会長】こういう活動は、特定の人に負荷がかかってしまう傾向がある。全部をボランティアで行うのは長続きしない。

【委員】また、三鷹市には、もともと地区の協議会がある。それを中心に動かせる仕組みがある。環境でも自治会でも、何でも地区の協議会を通じて動かすこ

とができる。

【コンサルタント】三鷹市の事例では、環境推進会議にも地区協議会が委員として参加している。

【委員】それは、素晴らしい。

【委員】西東京市にもエコセンターのようなものがあつたと思う。それについても調べてほしい。

【コンサルタント】調査する。

【委員】多摩市は事務局長も市民が就いているのか。

【コンサルタント】確認させていただく。会則を読むと市民だと思われる。

【事務局】小金井市は市で環境市民会議を設置し、あとの運営は市民に任せているようだ。市から一部補助金支出を行っているが支援はあまりないようである。

【部長】東久留米市は市が事務局を運営してくれているので、その点は改めて評価すべきではないか。「協働の仕組みづくりと運営」については事務局とも意見交換し、施策に含めるかどうかを決めたい。次回までに意見をお願いしたい。では、4-5は時間をかけてしまうが、継続案件ということでよいか。

(一同同意)

(5) 現計画5章(点検評価項目)について(資料5)

【事務局】

・点検評価項目について説明。

【部長】代表指標について議論したい。

【委員】目標2の②は、「畑面積」が代表指標だが、データが得にくいのではないか。

【事務局】地目データであり、むしろ得やすい。

【委員】目標3の③は、「生物種・個体数」が代表指標だが、東京都の調査は毎年ではない。

【事務局】河川での調査は毎年実施しているようである。また、緑被率と同じように生物種が毎年大きく変動するわけではないので、数年に一度の調査でも大丈夫だと思う。

【委員】目標4の②は、FITの認定量を代表指標としてはどうか。資源・エネルギー庁のホームページで公開されている。目標4の③は、環境省のデータを活用できると思う。

【コンサルタント】環境省で公開している計算フォーマットであると思う。東久留米市の原単位を呼び出すことができ、自動車台数を入力するとCO2排出量が算出される。

【委員】指標の中でアンケート調査を出典するものがあるが、毎年実施するアンケートか。

【事務局】2年に1回である。環境フェスティバル時に行うアンケートとは別である。

【委員】目標7の②、環境学習の機会は、何時間実施したというデータは得られないか。

- 【委員】目標7の③は、これまで市が実施しているイベントしか把握していなかったため、市民が実施しているものも把握できないかという話をしてきたと思う。
- 【委員】目標7の③は、「イベント開催数」、「イベント参加者数」が指標だが、目標7の②は「環境の保全に気を付けている（60歳以下）」というアンケート結果の指標である。これが、目標7の②を代表しているのかどうか。
- 【事務局】代表できるかという話はあると思うが、ただ、何時間実施したという指標が代表できるのかどうか。
- 【委員】機会を作るということであれば、良いのではないかと。回数でも、日数でも良いと思う。
- 【委員】「かんきょう東久留米」では、市が実施しているイベントだけでなく、市民が実施しているイベントも加えることになっているのではないかと。
- 【事務局】市民が実施しているイベントを加えるのは良いが、どこまで入れるのかが決まっていない。例えば、市民環境会議であれば把握できる。
- 【委員】環境フェスティバルに参加している団体とすることが考えられる。
- 【事務局】そのように決めることが一つ、もう一つは、それらの団体に報告をしてもらわなければならない。
- 【委員】今のお話は目標7の③だと思う。目標7の②の指標についてはどう思うか。
- 【委員】川ボラで把握しているデータがある。
- 【部会長】全学校に対して環境教育の実施状況を尋ねることが考えられる。
- 【委員】以前、環境政策課が教育委員会に依頼して得たデータがある。
- 【委員】そうであれば、それで良いのではないかと。それと、事業者にも同じ質問すると良い。
- 【事務局】事業者へのアンケートは、回収率が低い。
- 【委員】大手には環境担当者がいると思う。
- 【事務局】大手もなかなか難しくなっている。
- 【委員】尋ねるだけ、尋ねてはどうか。回収結果を公表すれば、回収率は上がると思う。
- 目標8の①は、環境に関心を持っている人という指標が考えられるが、アンケート結果に基づく指標となる。
- 【部会長】イベント参加者数の内訳という指標も考えられるが、そもそも目標8の①に定量的な指標が必要なのかという議論もある。むしろ、こういう進展があるとか、こういうつながりが生まれているといった定性的な評価の方が実態を表すのではないかと。
- 【委員】定性的評価は、評価する側から見ると難しい。
- 【部会長】しかし、参加者が増えれば、裾野が広がることになるのかどうか。
- 【コンサルタント】団体の登録者数ではどうか。

【委員】増やすことが目的であり、登録者数が増えて、飽和状態になってしまっても良いと思う。今はむしろ漸減していると思う。

【部会長】そろそろ時間である。指標については大きな異論はなかったと思う。では何かあれば早急に事務局まで連絡をお願いしたい。本日は代表指標を確認したが、活動指標の検討が残っている。これについては、委員からの意見も反映することになっていたと思うが、どうか。

【委員】検討した上で、意見があれば事務局へ伝える。

(6) その他

【部会長】次回の環境部会は9/14の13:30からである。

12. 閉会

【部会長】それでは第9回検討部会を終了する。ありがとうございました。